

### 3号 表紙, 序, 例言, 目次, 奥付

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-03<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2297/33355">http://hdl.handle.net/2297/33355</a>             |

# 金沢大学考古学研究会活動報告

第 3 号

— 活動10年のあゆみと

能美古窯跡 —

1981・3

金沢大学考古学研究会

## 序

金沢大学考古学研究会は、1969年に結成以来早くも12年目の活動を迎えた。この間、日頃の学習会を基にした遺跡分布調査を中心とし、発掘調査を含めた野外活動をおこなってきた。特に能美地域を対象とした野外調査は、当研究会が発足以来今日まで一貫しておこなってきたものであり、我々の活動における大きな柱となっている。この調査は単なる遺跡分布調査にとどまるものではなく、現実問題として地域の中での遺跡の置かれた状況を認識し、さらに、その成果を地域に還元することにより文化財保護をめざすものである。このような観点に基づき、74・75年に「活動報告第1号」「同第2号」を刊行した。さらに本書は、研究会結成10年を機にこれまでの活動をふり返り、今後の当研究会活動のあり方を求めるべく企画されたものである。従って、いわゆる「調査報告書」とは性格を異にする。

本書は上述したような意図に基づき三章から構成されている。第1章は、10年間の活動の総括および今後の当研究会の方向を示したものである。第2章は、能美地域での分布調査結果、特に「第2号」発行以後の調査結果である(一部78年3月発行の『湯屋古窯・和田山下遺跡調査略報』と内容が重複する)。第3章は、これまでの分布調査結果をもとに、その実態が不明瞭であった「能美古窯跡群」に関して整理・検討を試みたものである。

我々は、本書が地域の埋蔵文化財保護の一助として、また研究資料として活用されることを願うものである。

# 例 言

1. 本書は1979年度までの活動の一応の成果をまとめた自主活動報告書である。
2. 本書の執筆・編集はすべて79・80年度の会員がたった。
3. 資料整理は全員がおこない、本文作成は原案を分担執筆したのち全員の協議により推敲を重ね編集した。

## 目 次

### 第1章 10年のあゆみ

|            |   |
|------------|---|
| 第1節 活動のあゆみ | 1 |
| 第2節 現状と問題点 | 5 |
| 第3節 展 望    | 7 |

### 第2章 分布調査

|             |    |
|-------------|----|
| 第1節 分布調査の経緯 | 8  |
| 第2節 分布調査概要  | 9  |
| 第3節 個々の遺跡   | 15 |
| 第4節 総 括     | 67 |

### 第3章 能美古窯跡群の展開

|                 |    |
|-----------------|----|
| 第1節 既往の調査       | 69 |
| 第2節 編年的考察       | 70 |
| 第3節 窯跡の分布からみた考察 | 72 |
| 第4節 今後の課題       | 74 |

金沢大学考古学研究会活動報告

第3号

発行 1981年3月31日

発行者 金沢大学考古学研究会  
金沢市丸ノ内1番1号

印刷所 株式会社 橋本確文堂  
金沢市増泉4-10-10